

施策マネジメントシート

基本施策名	20 道路の整備と適正管理	施策 統括課	道路交通課	氏名	中島広幸
政策名	7 都市基盤	主な 関係課	工事担当、都市計画課		

1 施策の目的と指標

対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等
・市民
・事業者
・市内全域

対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 人口	人
イ 事業者数	件
ウ 市域面積	km
エ	



施策の目的

だれもがより安全で快適に移動できる「人にやさしい道づくり」を進めます。

成果指標(意図の達成度の指標)数字は記入しない

名称(展開方向ごとに記載)	単位
1 ア 歩道の改良率	%
イ 道路施設に起因する事故件数	件
2 ア 都市計画道路の整備率	%
イ	
3 ア	
イ	
4 ア	
イ	



2 第1次基本計画期間(平成28～令和5年度)内における取組内容

施策の展開方向	目的	手段(具体的な取組内容)
1 既存の道路空間の安全性・快適性の確保	歩行者、自転車、自動車など道路を利用するすべての人々が、安全で快適に移動できる道路空間を確保します。	・人々の暮らしの安全性・快適性を確保するため緊急度や重要度に応じ、老朽化した舗装・道路施設の補修やバリアフリー対応の歩道整備等を計画的に推進します。 ・さくら通りを2車線に減線し歩行者と自転車の通行を区分することで、人にやさしい道への改修を推進します。 ・既存の道路空間の適正管理にも結びつくよう、道路台帳の整備を推進します。
2 計画的な道路網の整備	地域の特性・課題に対応した秩序ある道路網の形成を図ります。	・選択と集中の下、従来にも増して、優先性が高い路線を絞り込むことが必要であり、相対的に高い費用対効果の発現が期待できる路線を抽出し、その計画的な整備を推進します。 ・都及び関係区市町で連携・協力の下、都が策定した「東京都における都市計画道路の整備方針」の第四次事業化計画に基づき計画的な整備を推進していきます。
3		
4		

3 総事業費・指標等の実績推移と目標値、実績状況把握

			単位	数値区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度			
対象指標		ア	見込み値											目標達成度		
		実績値	74,546	75,054	75,466	75,932	75,984							達成・ 未達成	前年度 比較	
		イ	見込み値													
		実績値	2,804	2,657	2,657	2,657	2,657									
		ウ	見込み値													
エ	実績値	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15										
成果指標	展開方向1	ア	成り行き値											未達成	向上	
			目標値	17.8	19.7	21.6	23.5	25.4	26.3	27.2	28.0	28.9				
			実績値	15.9	18.3	19.9	20.6	22.4								
			基本計画における 指標の説明又は出典元		歩道の改良率											
	イ	成り行き値											達成	向上		
		目標値	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
		実績値	0	0	0	1	0									
		基本計画における 指標の説明又は出典元		道路施設に起因する事故件数												
	展開方向2	ア	成り行き値										未達成	維持		
			目標値	38.3	38.6	39.0	39.3	39.7	39.9	40.1	40.3	40.5				
			実績値	37.9	38.2	38.2	38.2	38.2								
			基本計画における 指標の説明又は出典元		都市計画道路の整備率											
	イ	成り行き値														
		目標値														
		実績値														
		基本計画における 指標の説明又は出典元														
展開方向3	ア	成り行き値														
		目標値														
		実績値														
		基本計画における 指標の説明又は出典元														
イ	成り行き値															
	目標値															
	実績値															
	基本計画における 指標の説明又は出典元															
展開方向4	ア	成り行き値														
		目標値														
		実績値														
		基本計画における 指標の説明又は出典元														
イ	成り行き値															
	目標値															
	実績値															
	基本計画における 指標の説明又は出典元															
事務事業数			本数	17	18	3	4									
施策コスト	事業費内訳	財源	国庫支出金	千円	19,250			4,100								
		都道府県支出金	千円	65,662	180,718	123,572	131,497									
		地方債	千円													
		その他	千円	178,057	178,057											
		一般財源	千円	-89,480	-182,065		42,498									
		事業費計 (A)	千円	0	173,489	176,710	123,572	178,095	0	0	0	0				
		延べ業務時間	時間		31,816	37,816	12,100	6,400								
		人件費計 (B)	千円		125,280	155,280	60,500	32,000								
		トータルコスト(A) + (B)	千円	0	298,769	331,990	184,072	210,095	0	0	0	0				

4 施策の成果実績値に対する評価

(1) 時系列比較(過去3ヶ年の比較) A(かなり向上)～E(かなり低下)

(2) 他自治体との成果実績値の比較 A(かなり高い)～E(かなり低い)

背景として考えられること(数値で表せない定性的評価もあれば記載する)

老朽化した舗装・道路施設の補修は毎年実施していることから、「施策の展開方向」にある「既存の道路空間の安全性・快適性の確保」に対し、一定の成果が積み重ねられていると考える。
都市計画道路の整備については、事業着手した後用地取得に相当期間を要することから、道路の整備が完了して実績として表れるのは中長期後となる。
枯れ枝の落下による物損事故があった。街路樹の老朽化が課題である。

5 施策の現状 必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？

平成18年度から都市計画道路3・4・10号線の整備事業を実施している。
 平成23年度に東京都が都市計画道路3・3・2号線の事業認可を取得し、事業を進めている。
 平成25年度に東京都が都市計画道路3・4・5号線の事業認可を取得し、事業を進めている。
 平成25年にJR中央線の高架化が完了し、平成26年9月に側道の供用を開始した。
 社会資本(道路施設)の老朽化が進行していることから、道路法が平成25年6月に改正され、橋やトンネル等の定期点検が義務化された。
 平成25年度から、さくら通りの2車線化事業を進めている。
 平成28年に「東京都における都市計画道路の整備方針(第四次事業化計画)」を策定した。
 平成30年度に「国立市道路等長期修繕計画」を策定した。

(2) この施策に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

・市民から道路の舗装補修の要望が多く寄せられている。
 ・市民から甲州街道の歩道拡幅について要望がある。
 ・さくら通りの適切な維持管理のため、抜本的な改修を求める意見があるが、一方で老朽化した桜の保護を求める意見もある。
 ・都市計画道路3・4・10号線(北工区)の早期事業化の要望がある。

(3) 施策の取組状況

元年度の取組状況	2年度の取組予定
- 都市計画道路3・4・10号線(南工区)の引込連係管工事を実施した。 - 国立駅周辺道路等整備事業の内、北第1号線の電線共同溝工事を実施した。 - さくら通りの改修事業を継続的に進め、第5工区まで完成した。 - 老朽化した道路の補修工事を実施した。 「国立市道路等長期修繕計画」に基づき、橋梁の補修工事を行った。	- 都市計画道路3・4・10号線(南工区)の道路築造工事を行う。 - 国立駅周辺道路等整備事業の内、北第1号線及び西第1条線延伸部の道路築造工事を行う。 - さくら通りの改修事業を継続的に進め、最終工区(第6工区)に着手し、令和3年度までに完成させる。 - 老朽化した道路の補修工事を実施する。 - 道路ストック総点検を実施する。

6 元年度の評価結果 必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策の全体総括(成果実績やコスト、見直しを要する事務事業等) 基本的に展開方向ごとに記載

総合基本計画に照らして評価する(目的達成のための事務事業が適切か、事務事業の実施方法は適切か)

○成果実績

・老朽化した舗装・道路施設の補修及びさくら通りの改修を行うことで、展開方向1の目的が達成されている。

○改善余地のある事項・課題等

(2) 施策の元年度における総合評価

C	成果実績数値の評価(A～E)に、定性的要素を加味した評価 A: 目標とする成果を挙げており、社会的要請にも十分応えられている。 B: 一定の成果を挙げているが、向上・改善の余地がある。 C: 成果向上のため、一層の努力が求められる。 D: 成果に乏しく、改善が急務である。事業の一部に見直しが必要である。 E: 現状の事業では施策の目的を達成することが困難であるため、抜本的な見直しを要する。
---	---

7 施策の課題・今後の方向性 必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 3年度の取組方針

・「国立市道路等長期修繕計画」に基づき、計画的に維持管理をしていく。
 ・国立駅周辺道路等整備事業を引き続き関係機関と協議を行い、順次調査、設計、工事を行っていく。
 ・都市計画道路3・4・8号線の整備について、事業認可の取得に向け、関係機関と協議を進める。

(2) 中期的な取組方針(概ね実施計画期間を想定)

・「国立市道路等長期修繕計画」に基づき、財源を確保し、効果的・計画的な維持管理を行う。また、道路補修には極力東京都の補助金を活用しながら進めていく。
 ・国立駅周辺道路等整備事業については、引き続き関係機関と協議を行い、令和7年度末の完成を目指し、順次調査、設計、工事を行っていく。
 ・都市計画道路3・4・8号線の整備については、引き続き関係機関と協議を行い、令和11年度末の完成を目指し、用地買収、設計、工事を行っていく。